

富士見町スポーツ少年団員募集

町スポーツ少年団では、平成31年度新規団員を募集しています。対象は小学1年生以上の男女です。

入団を考えている方、興味のある方はお気軽にスポーツ少年団事務局へお問い合わせください。

みんなで一緒にスポーツを楽しみましょう。

【種 目】 剣道・野球(3団あり)・バレーボール・サッカー
空手・スキー・バトミントン

【結団式】 4月27日(土)予定 会場:町民センター

☎ スポーツ少年団事務局(町民センター) ☎62-2400



教育委員会だより

富士見町

第159号

「教育のまち子育てのまち学び続けるまち富士見」を目指して

平成31年3月1日発行
富士見町教育委員会編集
☎62-9235
kodomo@town.fujimi.lg.jp

3月
定例教育委員会
3月13日(水)
午前9時30分～
役場2階 教育長応接室
傍聴歓迎!

子どもに関する
なんでも相談
月曜日～金曜日
午前8時30分
～午後5時15分
☎62-9233
家庭・教育・子育て
相談員

3月17日
(第3日曜日)は
家庭の日・
家庭読書の日

もうすぐ春休み
です。
春休みは新年
度に向けての目
標を立てて、そ
の準備をしまし
ょう。



保育園で豆まき

各保育園で節分の豆まきが行われました。

本郷保育園では、園長先生が「自分の中の“泣き虫鬼”や“おこりんぼ鬼”をやっつけましょう!」と話し、まずは自分の中の鬼を追い払うために豆まきをしました。自分で作った鬼のお面をかぶり、順番に鬼になって友達に豆を投げてもらいました。



そこへ赤鬼と青鬼が登場! 鬼の迫力に思わず泣き出してしまう子や、鬼に追いかけられて必死に逃げ回る子と大騒ぎでしたが、怖さに負けずに鬼に向かって豆を投げて、追い払うことができました。

すると福の神が現れました。頑張ったごほうびにお菓子をもらい、子ども達は満足そうでした。



姉妹町スキー交流

本郷・境小学校の5年生と、姉妹町の西伊豆町の5年生合わせて95名が、1月25日に富士見高原スキー場でスキー交流会をしました。

昨年7月に西伊豆町で一緒に海水浴をしてから半年ぶりの再会です。夏と同じ交流班で元気にスキーを行い、お昼のカレーも一緒に食べました。



青空が広がり、空気も澄んだ真冬に楽しい交流ができました。

来年度の交流は、富士見小学校の5年生です。



検討事項
・長野県中学生期のスポーツ活動指針改訂版(素案)について
・富士見町公共施設個別施設計画策定について
・教育大綱について
*詳しくはホームページをご覧ください。

検討事項

・生涯学習課より
・諸事業について(町民スケート大会、成人式、コミュニケーションプラザ改修工事、ゆめひろばの利用について)

報告事項

・教育長より
・星野富弘氏の詩画展について
・教職員人事について
・子ども課より
・園長会報告、事業進捗状況
・生涯学習課より

議決事項

・指定校変更申請及び通学区域外就学申請について
↓ 全員一致で可決

1月定例 教育委員会報告

1月9日に開催された1月定例教育委員会で協議した主な内容をお知らせします。

はじめの一步
Part ④

「心の拠り所として安心して成長できる場所」

1月22日、雪のちらつく寒い朝でした。気温は氷点下10度。朝学（3年生の補習）のために中学校に向かっていました。南原山のスクランブル交差点の信号が赤に変わり、ガソリンスタンドの前を小学生が横断するところです。その後ろ姿を歩道から母親が見送っていました。その女の子は道路を横断すると、それぞれの道路に停車している車に向かって丁寧に4回お辞儀をしました。我が子を見送るお母さんと車にお辞儀をした女の子の姿が重なりました。



ところで、マルトリートメントということばを聞いたことがありますか。不適切な養育と訳されるそうです。不適切な養育として、虐待、体罰、暴言、ネグレクトなどがあげられます。福井大学子どもこころの発達研究センター教授の友田明美さんは、「子どもの脳を傷つける親たち」（NHK出版新書）の著書の中で、「脳には外部からの影響を受けやすい、非常に大事な時期があります。胎児期、乳幼児期、思春期です。こうした人生の初期段階に、親や養育者といった身近な存在から適切なケアと愛情を受けることが、脳の健全な発達には必要不可欠です。

しかし、この時期に極度のストレスを感じると、子どものデリケートな脳は、その苦しみになんとか適応しようとして、自ら変形してしまうのです。」と書いています。友田明美さんは、NHKのクローズアップ現代やプロフェッショナル仕事の流儀でもこのことを話されています。



「日々、子どもと接する中で、こうしたマルトリートメントがまったくないという家庭など存在しないでしょう。」しかし、「親に愛されているという自信と安心感さえあれば、健全に心の成長を遂げていきます。たとえ困難にぶつかっても、ぼく、わたしは安全な場所に戻ることができる。いつでもそばに、安心してできる人がいる、このような『こころ』の安定が、ひいては子どもの社会性をも育むのです。」と書いています。

朝学では、昨年度の高校入試問題をやりました。最後の10分で解説をしていると、顔を上げて目を見開き、私の拙い解説をしっかり聞いている女生徒がいました。説明を聞きながら時々頷いています。この子の背後にもこの子をしっかりと支えている保護者の方の姿を感じることができました。

いよいよ受験のシーズンが始まりました。中学3年生の皆さんは不安な気持ちと闘いながら毎日を過ごしていることと思います。きっとご家族の皆さんも同じ思いでしょう。テニスの全豪オープンで優勝した大坂なおみ選手が、「インナーピース」という言葉を口にしたそうです。あの決勝戦を見ていて、まさにその言葉が勝負の行方を左右したように思いました。

子どもたちの成長にとって、何かに向かうときの平常心、心の安定が図れる居場所（家庭）があること、それを支え、育む地域・学校があることの大切さを感じています。



中学3年生の皆さんに、萩原慎一郎の句を送ります。

「きみのため用意されたる滑走路 きみは翼を手にはすればいい」
(家庭・教育相談員 小林正典)

給食食材放射能測定結果(1月分)

測定日	測定食材数	測定結果
1月16日	5	町基準の10ベクレルを超えた食材はありませんでした。
1月23日	5	

※保育園、小・中学校で使用を予定する給食食材の放射能が10ベクレルを超えた場合は、給食に使用しません。詳しい測定結果は、町のホームページをご覧ください。

卒業、卒業の季節です。お世話になった先生や仲間とたくさん話し合った思い出を振り返って、新しい環境へと踏み出しましょう。(Y)

編集後記